

就職・採用活動等に関する意見

令和2年10月22日
就職問題懇談会

- 就職・採用活動の枠組みについては、これまで大学側と企業側との間で協議し、就職活動時期などを定めてきており、一昨年日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を今後策定しないことの表明を受けて、政府による要請をとりまとめていただいたことは、学生の混乱を最小限に抑制する上で非常に効果的なものであったと考えている。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、社会・産業構造の変化が大きく進んでおり、就職活動においては、企業の内定取消しやウェブ中心の選考などにより、多くの学生が不安を抱えている。ウィズ・ポストコロナ時代を見据え、「新たな日常」の下で、若者の働き方、キャリア形成、雇用機会がどのように変化するかについて、現時点において具体的に見通すことは困難であるが、引き続き注視する必要がある。
- これらのことから、令和4年卒業予定者に係る就職・採用活動の要請を行う上でも、昨年度と同様、学生に不安を生じさせるような急激な日程等の変更は望ましくないと考えており、学生がしっかりと学業に専念した上で就職活動に臨む観点からも、改めて、日程（3月広報活動開始、6月採用選考活動開始）を含めた現行の枠組みの維持を求めたい。
- 併せて、日本人海外留学生など学生の多様性にも配慮する観点から、それらの学生が就職活動で不利になることがないよう、多様な採用選考機会を設けることについて積極的に検討することを求めたい。
- 一方、大学等に対する調査結果からも、上記日程が多数の企業等で守られておらず、年々早期化が進む状況が明らかであることから、学生の本分である学業が就職・採用活動によって妨げられることなく、学生が安心して就職活動を行えるよう、引き続き政府におけるより良い取組を求めたい。

○また、日本経済団体連合会では、昨年1月、大学との意見交換の場（採用と大学教育の未来に関する産学協議会）を設け、議論が進められているところである。この意見交換の場における議論においては、これまでの新卒一括採用だけでなく、学生の様々な状況を踏まえた複線的な採用形態を導入することなどが意見として出されている。加えて、今般の新型コロナウイルス感染症が、学生・企業の就職・採用活動に大きな影響を与えたことも踏まえ、ウィズ・ポストコロナ時代を見据えた「新たな日常」の下での就職・採用活動のあり方についても検討が求められている。このような情勢や学生の意識の変化も含めた新たな就職・採用活動の実施形態について、就職問題懇談会でも、今後検討を進めていく必要を感じているところである。

○いずれにせよ、今年度、政府において改めて要請を行う上では、引き続き、学生が学修時間を確保しながら安心して就職活動を行える環境整備に留意いただいた上で策定をお願いしたい。

以上